

重度に歯質が欠損した歯に対する補綴処置

穂積英治

愛知県 穂積歯科医院 院長

講演抄録

歯を失う原因としては、主にカリエス、歯周病、治癒困難な根尖病変、歯根の破折等が考えられる。特に過去に根管治療を終えた失活歯にクラウンやブリッジが装着されている場合、支台歯に2次カリエスや歯根破折がおこり抜歯に至るケースがしばしば見られる。

インプラント治療が盛んに行われるようになった今日、疑わしい歯は抜歯されインプラント補綴に置き換わるような傾向にあるが、同時にトラブル症例も数多く報告されるようになってきた。

シビアな状態の歯を前にして、保存すべきか抜歯すべきか？インプラントにするべきか、コンベンショナルな補綴にすべきか？抜歯の基準は歯科医師によって大きく異なり、その歯科医の専門性やそれまでに受けてきた教育、医院のセッティングや地域性によって影響を受ける。もちろん患者の要望も治療方針を決める上で重要な要素であるが、自分が決断した治療の予後がどのくらいなのか常に悩むところである。

そこで今回の発表では今一度、歯の保存とコンベンショナルな補綴処置を見直して、いかにシビアな状況の歯を保存して予知性の高い補綴物を患者に提供することが出来るかを、実際の症例を提示して治療の選択基準と自分の考えを述べたい。